

平成30年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選大会展望

(一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島 洋己 (静岡県立科学技術高校教諭)

平成30年度全国高校総体(インターハイ)バスケットボール競技静岡県予選は5月26日に静岡西高校体育館他で開幕する。男女とも各地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、27日に行われるブロック決勝で勝利した4校による**決勝リーグ**が6月2日、3日に袋井市・エコパアリーナで行われる。上位2校が8月2日から愛知県一宮市・一宮市総合体育館他で開催される**全国高校総体**へ、上位3校が6月16日、17日に愛知県小牧市・パークアリーナ小牧で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。2月に行われた東海新人大会では「激戦区・東海」の中で飛龍男子と浜松開誠館女子が準優勝、静岡県高校バスケのレベルの高さを改めて証明した。今大会は全国総体出場がかかる大きな大会、さらには静岡県が男女とも2枠の出場権を得られる最後の大会となる。選手たちの熱い戦いに注目したい。さらには今年度もこの大会が**全日本選手権(オールジャパン)**の予選も兼ねており、男女とも上位2チームが8月末にエコパアリーナ・サブで行われる**県代表決定トーナメント大会**の出場権を獲得する。昨年は浜松開誠館女子が大学生、社会人を破り優勝、第二次ラウンドに進むなど**2020年・東京オリンピック**でバスケットボールの会場となるさいたまスーパーアリーナで正月に行われる大会につながるので、選手・指導者共にモチベーションが高まっていることに違いない。

またこの大会も1月に行われた県新人大会同様「**5位決定トーナメント**」を行う。県総体としては初の試みとなる。県新人で行われた際は決勝リーグに勝るとも劣らない白熱した戦いが繰り広げられた。その結果もウィンターカップ県予選シード順の参考資料となるだけにこちらの方も今まで以上に熾烈な戦いが予想される。

【男子】

やはり優勝候補筆頭は昨年度県総体・ウィンター・県新人の県三冠王者、そして東海新人準優勝の**飛龍**。昨年末のウィンターカップでは月刊バスケットボール誌選定の感動大賞も受賞、先輩たちが残した粘り強さは新たな伝統として後輩たちに引き継がれている。チームの中心は言わずと知れた**関屋心**。先日U-18日本代表強化合宿にも参加、1on1や3Pにさらに磨きをかけた。緩急をつけた力強いドライブなどアグレッシブなプレーが持ち味で、相手の執拗なシュートチェックも巧みなポンプフェイクでかわして得点を重ねていく。相手がパスを警戒すれば瞬時の判断でドライブに切り替えゴールに突き進むような、相手の守り

を見て駆け引きをし、攻撃の幅を広げていくまさに神がかり的な選手である。今大会一番の注目選手と言っても過言ではない。関屋同様チームの大黒柱となるのが**杉山裕介**。全ポジションをこなせる器用な選手で、力強いドライブは天下一品である。インサイドには中国人留学生・**リュウヤハオ**が待ち構える。まだディフェンスに課題は残るが、以前にもましてプレイエリアが広がりオフェンスのバリエーションも格段に増えた。県新人の優勝決定戦・浜松開誠館戦では20得点、さらには3Pも披露、さらなる成長に期待させる。そして忘れてはならないのが、県新人でブレイクした**原千容**。以前時折見受けられた消極性が影を潜め、ドライブ・リバウンドに八面六臂の活躍を見せた。また**原田未央**は東海新人大会2回戦・高山西戦で3P8本を決めた。特に第3ピリオドだけで6本の3Pを決めるなど大舞台上で驚異的な活躍を見せた。前述の4選手同様、春先に行われた県協会の強化遠征選手にも選ばれさらに経験値を上積みしたことであろう。その他にも3Pを得意とする主将・**西尾昂也**、昨春の右膝の大怪我を乗り越え、東海新人決勝・中部大第一戦で3P5本を決めて見事な復活を遂げた**山村祥太郎**、控えの司令塔としていぶし銀の働きを見せる**高須崇志**、シューター・**色山輝**など戦力の厚さは県下随一、全国レベルとも言える。一昨年度の県新人から県内無敗のチームは2年連続の全国総体出場、そして県総体連覇に向けて死角がない。

その絶対王者・飛龍を猛追するのが県新人準優勝の**浜松開誠館**。今まで県内三大大会では何度となくベスト4入りを果たしていたが、今年1月の県新人で初の準優勝。東海総体と合わせて3度目の「東海大会」出場となった東海新人では初戦・名古屋大谷に快勝、見事「東海」初勝利を飾った。打倒・飛龍の一番手に挙げられるチームだけに、磐石の態勢で決勝リーグに臨みたい。県新人・東海新人ともスターターは一貫して**神田誠仁**、**田中駿**、**田中勇樹**、**飯島友汰**、**佐原和樹**の5人。チームのスコアラーである神田はドライブ、3P、そして相手ディフェンスを引き付けてのパスさばきなどすべてをそつなくこなすオールラウンダー。東海新人・四日市工業戦では全国大会常連の強豪相手に22得点を記録した。神田と双璧をなす田中勇樹は精度の高い3Pと鋭いドライブ、粘り強いディフェンスで相手を翻弄していくプレーが信条、田中駿とのドライブからの息のあった合わせも絶品である。佐原は神田・田中勇に次ぐ得点源で、県新人決勝リーグの藤枝明誠戦では3P4本を含む23得点を挙げた。ディフェンスからの速攻を武器とし、チームを全国の檜舞台に導いてくれるだろう。オールコートプレスなど多彩なディフェンス、そして堅い守りに一層の磨きをかけて、悲願である初の全国総体出場、そして初の県大会制覇へ勇往邁進する。

県新人3位、中部総体を13年連続で制した**藤枝明誠**も優勝候補の一角である。持ち前の高さを生かしたバスケットに加え、そのインサイドを軸にして内外の連携が有機的に調和したバスケットを展開する。「高さ」の象徴として3人のマリ人留学生がインサイドの起点として交代でコートに出てくる。206cmの**セコウ・ドゥクレ**は地区予選では怪我により出場機会がなかった。しかしながら昨年のウィンター県予選や1月の県新人で見せた力強いプレーは我々の脳裏に焼きついて離れない。日本のバスケットにもすっかり順応、県総体では万全の体調でその雄姿を見せてくれるに違いない。そのセコウの代役として中部予選でも活躍した

200cm・オマール・ティジャン・チュヌや新入生198cm・カミソコ・オマールも限られたプレイタイムの中で自分たちの持ち味を十分発揮したプレーをした。留学生とともにゴール下を守る山下輝夫は試合経験を積むたびに技術が上達して今やチームにはなくてはならない存在である。その他ゲームキャプテンで司令塔・シュートエリアの広い中村和磨、中部予選決勝・静岡学園戦では19得点を記録したトリッキーなサウスポーク浜本健、阿部監督と共にバスケットをして6年目、監督の想いを選手に伝える役割も担う野口嶺、そして山下と共に国内強化遠征にも参加した菊池広人など能力のあるプレーヤーが揃っているだけに、ずば抜けた高さを生かして3年ぶりの全国総体出場、そして4年ぶりの県総体制覇を目指す。

昨年の福島インターハイにも出場、県新人4位で東海新人出場を逃し、西部予選も2位に甘んじた浜松学院も侮れない。昨年のこの大会は準優勝で2年連続の全国総体出場を果たした。その後のウィンター県予選では3位、県新人4位と不満足な結果が続くだけに今大会に期する思いはどのチームよりも強いだらう。エースの葉山大誠は県新人決勝リーグの3試合で強豪相手に67点を挙げた得点源である。リバウンドにも絶対の自信を持っておりチーム浮上のカギを握る。ガードの新村健心や伊藤凧都も高確率で外角からのシュートが決まりチームの窮地を度々救ってきた。インサイドの于振華も献身的なリバウンドを見せるようになって来た。今年で66回を数える県総体で、優勝10回、全国総体出場19回を数える静岡県高校バスケット界を代表する「レジェンド」のチームだけに今大会での巻き返しを期待したい。

県大会初の試みである「5位決定トーナメント」を制し県新人5位となり、東部予選も準優勝を飾った公立の雄・伊豆中央には絶対的なエース・井村飛美希がいる。強靱なフィジカルを誇る井村は崩れた体勢からも確実に得点を重ね1月の県新人5位決定戦・三島北戦でも勝負強さを発揮、25得点を記録した。精神的な要となる木代祥太、外からの長距離砲が魅力・福本海成、185cm、インサイドで成長著しい山品なさにえるなど十分に東海総体出場も目指せる戦力である。まずは確実に県4強入りを狙い、公立勢としては平成24年の浜松商業以来6年ぶりの東海総体出場をも射程内に捉える。そのためにはブロック決勝で予想される浜松学院戦が最大の修羅場となるだろう。

その他、県新人6位、春の強化遠征にも選ばれた末永悠士や2月の東海エンデバーにも参加した末永昂士を擁する三島北、4月にU-18日本代表ドイツ強化遠征にも参加して体に柔軟性が生まれ、ダンクシュートはもちろンドライブや3Pも器用にこなすようになり一回りたくましくなった「静岡県バスケット界の至宝」身長205cm・市川真人や県選抜選手・鍋田隆征を擁する県新人7位・中部予選準優勝の静岡学園、2年前の覇者・東部予選3位、昨年度一年間は十分な結果が得られなかったが、コンゴ人留学生・202cmのフェイ・モハメドが加わり雪辱を期す沼津中央、西部予選3位、山村吏玖、大滝龍二などメンバーに180cm台の選手を5人抱える浜松工業、派手さはないが堅実なプレーでチームを勝利に導く須藤士恩を擁する県新人7位・星陵などがエコパアリーナのコート、その先の東海総体、全国総体を目指ししのぎを削るだろう。

最後に初出場と久々に出場するチームを紹介したい。初出場は創部2年目の**浜松聖星**。1、2年生のみの新進気鋭のチームである。すでに1月の県新人で初の大舞台は経験済みであるが、得点源である**小笠吏規斗**を中心としたフレッシュなバスケットが強豪・沼津中央相手にどこまで通用するか楽しみである。また昭和40年度・45年度県総体3位の古豪・**沼津工業**は、東部総体11位決定戦で県新人にも出場した小山相手に2点差で勝利、見事昭和54年以来39年ぶりの県総体出場を決めた。夏場に工業大会で戦いぶりを見た時にはまだまだ荒削りで県大会に届くレベルではないように思えたが、東部新人での11位（県新人出場には届かず）、そしてその後の鍛錬により県切符を勝ち取った。非常に厳しい組み合わせであるが、中部予選王者の藤枝明誠に全力で向かって行き、悔いのない戦いをして欲しい。

【女子】

一昨年この大会から県内負けなし、県高校三大大会6連覇中、県内試合45連勝中の**浜松開誠館**が他の追随を許さない大本命である。県新人も圧倒的な強さで優勝、続いて挑んだ東海新人では準決勝でインターハイ21回・ウィンターカップ22回の優勝を誇る桜花学園相手に一度もリードを許すことなく62-57で見事勝利、県勢としては平成13年度の常葉学園以来の対桜花学園戦勝利を勝ち取った。前年度の大会でも6点差にまで追い詰めており、大金星というには浜松開誠館にとっては失礼すぎる感さえある。決勝はウィンター準優勝の安城学園に惜敗したが言葉には言い表せない価値のある準優勝だった。この常勝チームに対する他チームの包囲網は厚くなるばかりだが、勝って兜の緒を締めるチームの雰囲気にも慢心も油断も感じられない。攻守の柱は**鈴木侑**と**石牧葵**。鈴木は4月に行われたU-17日本代表ラトビア遠征にも参加、昨秋のFIBA U-16アジア選手権（インド開催）に続き貴重な実戦経験を積んだ。切れ味鋭いドライブと粘り強いリバウンドはさらに磨きがかかったことであろう。石牧も3月のU-18日本代表アメリカ遠征に参加した。生まれ持ったポテンシャルは誰よりも高く、どんな状況下でもレイアップや3Pを冷静沈着に決めることが出来るプレイヤーである。東海新人でも桜花学園戦28点、安城学園戦25点を挙げ全国トップレベル相手にも十分通用する攻撃力を見せてくれた。絶大なキャプテンシーを持つ**小幡桃花**はエース2人にディフェンスが密着した時にはパスをつないで周りから攻撃の糸口を見つけて攻められる抜群の状況判断力の持ち主である。昨年県選抜にも選ばれた**伊藤綾優花**は東海新人・名経大高蔵戦では真骨頂の3Pを7本決め勝利に貢献した。元々ディフェンスの足があり球際にも強い選手ではあるが外角からのシュートも正確性が増し、今度は県総体優勝の救世主となるであろう。下級生に目を移すと**松岡木乃美**は内角の起点となり力強いジャンプショットで得点を積み重ねる。シックスマンの**奈須梓咲**は県新人・東海新人共に全試合出場、徐々にプレイングタイムを伸ばしてきた。特に東海新人決勝戦では得点も記録し自信もついたはずである。選手層の厚さに加え、スキのないオフェンス、スクリーンへの忠実な対応、素早いヘルプ、徹底したインサイドのディフェンスなどチームは円熟期にさしかかり完成度も高い。西部予選でもそうであったが、県総体でも一つ一つ目の前の試合を「全

員で攻めて全員で守るバスケ」で戦い、勝利を積み重ねて県総体3連覇へと突き進むことであろう。

浜松開誠館を横一線で追いかけるのは、県新人で決勝リーグを共に戦った駿河総合、市立沼津、常葉大常葉に加え、ブロック決勝で開誠館に惜敗した藤枝順心の4チーム。

駿河総合は県新人決勝リーグ、得失点差で準優勝を勝ち取り東海新人出場権も獲得した。内外のバランスがととてもよく取れたチームであり、主将・**野村菜由**は度胸よく放たれる3Pや思いきりのよいドライブで仕掛ける1on1が魅力、東海新人・岐阜農林戦では22得点を記録した。得点源である**鈴木美優**は160cmにも満たない小柄ながら、レイアップ・3Pと多彩なシュートで得点を量産、まさに「小さな巨人」である。県新人・常葉大常葉戦ではチーム総得点・74点の半分にあたる37得点を一人で稼ぎ出すなど素晴らしい活躍を見せた。**勝又亜梨沙**はリバウンドを制してのブレイクが絶品、同じくゴール下を守る177cm**加茂恵**はプレーに力強さが増し、インサイドからのオフェンスの起点となっている。中部予選では準決勝で藤枝順心に惜敗して3位、第5シードで臨む今大会、まずはブロック決勝での対戦が予想される宿敵・藤枝順心との戦いを制し、決勝リーグに駒を進めたい。そうすればおのずと3年ぶりの全国総体出場、そして悲願の初優勝まで現実味を帯びてくる。

県新人3位で東海新人にも出場した東部予選覇者・市立沼津は杉浦・遠藤という内外角から高い得点源を擁する。外角の**杉浦雅**は県新人・浜松開誠館戦で3P6本、東海新人・いなべ総合学園戦では3P4本を決め、さらにはドライブも絶妙で多彩な個人技で観客を魅了した。インサイドの要である**遠藤真帆**は県総体決勝リーグ3試合で合計70得点、特に駿河総合戦ではフリースロー11本を含む27点を挙げた安定感のある選手である。2人とも昨年県選抜に選ばれており、特に遠藤は一年次から抜擢され和歌山国体にも出場した。遠藤と共にゴール下を守る**古賀理紗**は日々の精進でローポストだけでなくハイポストまでシュートエリアを広げ攻撃のバリエーションを増やした。**上柳穂夏**は試合中も落ち着いてチームをまとめ士気を上げる大切な役割も担う。古賀、遠藤、杉浦と170cm台3人を生かしてのインサイドプレーで、昨年得失点差で惜しくも逃した全国総体出場を目指す。

得失点差で惜しくも東海新人出場を逃した**常葉大常葉**は危なげない戦いで中部予選を制し、今大会第2シードで賜杯奪還に挑む。司令塔の**北村音緒**はゴール下に果敢に飛び込むリバウンドと高い得点力が特徴、県新人・駿河総合戦では33得点、中部予選決勝・藤枝順心戦では28得点を挙げチームの勝利に多大なる貢献をした。主将・**山地菜月**は藤枝順心戦ではファウルトラブルに遭ったが前半だけで11得点、粘り強いディフェンスとともにオフェンス面でも上達の跡が見えてきた。またスタメンには常時3人の2年生が名を連ねる。**保坂悠月**は持ち前のスピードを生かし、競った展開でも適切な状況判断をして詰めまできちんとやり切れるスマートな選手である。**山口郁実**はリバウンドへの初動が速く、いい位置でボールを支配してブレイクに持ち込んでいく。**林美弥子**はミニ・中学時代のキャリアが抜群、そ

の経験値を生かして度胸あふれるドライブや3 Pを見せる。昨年の県総体、そして今年の県新人ともに得失点差で上位大会出場を逃した悔しさをバネに、持ち味の脚力を生かしたトランジションバスケットで接戦を粘り勝ち展開をし、3年ぶりの全国総体出場・県総体優勝を狙う。

中部総体準優勝・県新人5位の**藤枝順心**は、藤枝順心中学時代に全中出場を経験した主力が最高学年となり、今年がまさに勝負の年である。長身173cmの**内海遥**はインサイドプレイヤーながら器用に3 Pも放つスコアラー、身長はそれほど高くないがシュートの軌道を読みきってゴール下の絶妙な位置でリバウンドを奪う**駒形伊恭**、積極的なディフェンスからオフェンスにつなげる**滝澤有希**、新チームになってレギュラーに定着、低い体勢からのドライブやパスを受けて迷うことなく瞬時に放つ3 Pが魅力の**柴田珠り亜**、その他にもバックビハインドドリブルを得意とする**南部響**、ルーズボール・リバウンドなど泥臭いプレーに汗を流す**望月彩楓**など4強にひけをとらない戦力を誇る。一丸となってフィジカルの強化に努め、最後は個々の1 on 1の能力を高めていくことを目標に掲げるチームは初の東海大会出場、そして高校でも全国大会出場を目指す。ブロック決勝で予想される駿河総合との今年3度目の対決となる。過去2回は藤枝順心が勝利しているが今回は負けた方が全国への道を完全に閉ざされる大切な試合、勝利の女神はどちらに微笑むのか、今大会屈指の好カードである。

その他、県新人6位・西部予選3位、春の国内強化遠征にも参加したエース・**角本光**を擁する**浜松市立**、県新人7位・西部予選準優勝、上記の強化遠征にも選ばれた177cm・**早崎莉里香**がインサイドで待ち構える**浜松学院**、同じく県新人7位・西部予選4位、県新人・浜松市立戦で3 P 3本を含む22得点で一人気を吐いた**石橋由衣**を擁する**西遠女子学園**の西部勢に加え、県協会強化事業の「トップアスリート」にも参加した**鈴木好**が軸となる中部予選4位の**静岡女子**、そして東部予選で初の準優勝を飾った**三島北**も虎視眈々と決勝リーグ進出を狙っている。

最後に男子同様、初出場と久々に出場するチームを紹介して展望を締めくくりたい。初出場は西部10位・**浜松大平台**。創部13年目にして初の県総体出場を果たした。一足早く初出場を果たした今年の県新人では県3位の市立沼津に44-77で敗れたものの、強豪相手に自分たちが持っているすべてを出し切り大健闘した。今回も市立沼津との対戦が決まり、県新人の再戦となる。あの試合で見せた何事にも手を抜かないひたむきな姿勢を忘れずに最後まで悔いのない戦いをして欲しい。そして西部7位の**浜松東**は平成4年以来26年ぶりの出場となる。今年の県新人にも7年ぶりに出場し、勝利は掴めなかったが静岡女子相手に大善戦、今回は実質的な地区の順位を上げての出場となり、県大会初勝利も視界に入ってきた。チームの信条である「全員守備と速攻」をきちんと試合でも実践し、夢を現実のものとして欲しい。